

令和7年度 [1]年[社会]科 年間学習計画

鈴鹿市立白子中学校

目標	○日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察して理解し、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を高める。		
	○歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解し、それを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を高める。		
観点別目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	社会的事象の意義や特色、相互の関連性を理解するための知識を身につけ、平素から各種の資料に親しみをもち、社会的事象に関する情報を取捨選択し活用するとともに、考察した過程や結果を適切に表現する。	社会的事象から、自ら問題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化をふまえ公正に判断する。	社会的事象に対する関心を深めるとともに、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。

学期	月	学習内容	学習のねらい
一学期	4月	○世界の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の大まかなようすや大陸・海洋の分布を知る。 ・緯度と経度など、地理を学習する際に使用する用語や約束を理解する。 ・日本と世界との時差について学ぶ。 ・世界地図の用途や特徴を学ぶ。 ・主な国の名称や位置・特徴を知る。 ・世界各地の人々の生活や文化、環境について気候と関連付けて学ぶ。 ・世界の諸地域の自然環境・産業・生活・文化・歴史的背景を知り、地域的特色を理解する。
	5月	○人々の生活と環境	
	6月	○世界の諸地域 アジア州 ヨーロッパ州	
	7月	アフリカ州 北アメリカ州	
二学期	9月	南アメリカ州 オセアニア州	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での学習内容を振り返りながら、歴史の大まかな流れを捉える。 ・世界の古代文明や宗教が生まれたこと、また、日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化したことを理解する。 ・国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとのかかわり、古墳の広まり、大和政権による統一を通してとらえる。 ・大陸の制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられたこと、国際的な要素を持った文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことをとらえる。
	10月	○歴史の流れをとらえよう	
	11月	○古代までの日本 世界の古代文明と宗教のおこり 日本列島の誕生と大陸との交流	
	12月	古代国家の歩みと東アジア世界	
三学期	1月	○中世の日本 武士の政権の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の誕生と武家社会の発展を学ぶ。鎌倉時代の武士や民衆の動きを資料などから読み取る。 ・鎌倉幕府の滅亡と南北朝の動乱、室町幕府の成立を知る。 ・室町時代の新しい文化の特色を理解する。
	2月	ユーラシアの動きと武士の政治の台頭	
	3月		

評価の方法	知識・技能	定期テスト(宿題テスト、小テスト含) などによって、その到達度を測る。
	思考・判断・表現	振り返りシートやワークシートなどの提出物及び定期テスト(宿題テスト、小テスト含) などによって、その到達度を測る。
	主体的に学習に取り組む態度	学習態度(グループ活動・振り返りシート・提出物・学習準備など)及び定期テスト(宿題テストや小テストを含む)などの「知識・技能」、「思考・判断・表現」の到達度を踏まえ評価する。

令和7年度 [2]年[社会]科 年間学習計画

鈴鹿市立白子中学校

目標	○日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察して理解し、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を高める。 ○歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解し、それを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を高める。		
観点別目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめる。	○社会的事象から、問題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論する。	○社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

学期	月	学習内容	学習のねらい
一 学 期	4月	<地理的分野> ○身近な地域の調査 ○日本の地域的特色	・身近な地域を調査する。地形図を使って資料読み取りを学ぶ。 ・日本の自然環境や人口、産業などの特色を学ぶ。
	5月	○日本の諸地域 ・九州地方 ・中国四国地方 ・近畿地方	・日本の諸地域の地域的特色をとらえ、そこで学んだことを基にして広い視野から日本全体の地域的特色を知る。
	6月		・各地域の特色ある事象を、他の事象と関連付けて考え、地理的な見方や考え方を身につける。
	7月		
二 学 期	9月	・中部地方 ・関東地方 ・東北地方 ・北海道地方	・日本の諸地域の地域的特色をとらえ、そこで学んだことを基にして広い視野から日本全体の地域的特色を知る。
	10月		・各地域の特色ある事象を、他の事象と関連付けて考え、地理的な見方や考え方を身につける。
	11月		
	12月	<歴史的分野> ○ヨーロッパとの出会いと全国統一	・ヨーロッパ文化伝来の影響について理解し、織豊政権の全国統一事業の特色を学ぶ。
三 学 期	1月	○江戸幕府の成立と鎖国 ○産業の発達と幕府政治の動き	・江戸幕府のしくみ、人々の暮らしや文化を学ぶ。 ・江戸時代の社会のしくみや産業の発達について学ぶ。
	2月		・武士の政治が終わり、明治政府ができ、欧米の文化や制度を整えていったことを調べ、産業の発達や憲法の制定や近代化への経過やその目的を理解する。
	3月	○日清・日露戦争と近代産業	・明治維新によって、近代化の道を歩みはじめた日本社会の姿を理解する。 ・日清・日露戦争、及び戦後の近代産業の発展について学ぶ。

評価の方法	知識・技能	定期テスト(宿題テスト、小テスト含)などによって、その到達度を測る。
	思考・判断・表現	振り返りシートやワークシートなどの提出物及び定期テスト(宿題テスト、小テスト含)などによって、その到達度を測る。
	主体的に学習に取り組む態度	学習態度(グループ活動・振り返りシート・提出物・学習準備など)及び定期テスト(宿題テストや小テストを含む)などの「知識・技能」、「思考・判断・表現」の到達度を踏まえ評価する。

令和7年度 [3]年[社会]科 年間学習計画

目標	○広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を身につける。		
観点別目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめる。	○社会的事象から、問題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論する。	○社会的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

学期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	4月	○欧米の進出と日本の開国 ○明治維新	・武士の政治が終わり、明治政府ができ、欧米の文化や制度を整えていったことを調べ、産業の発達や憲法の制定や近代化への経過やその目的を理解する。 ・明治維新によって、近代化の道を歩みはじめた日本社会の姿を理解する。
	5月	○日清・日露戦争と近代産業 ○第一次世界大戦と日本	・日清・日露戦争及び戦後の近代産業の発展について学ぶ。 ・第一次世界大戦の経緯及び日本とのかかわりを学ぶ。
	6月	○世界恐慌と日本の中国侵略 ○第二次世界大戦と日本	・世界恐慌の影響と日本の中国侵略とのかかわりを学ぶ。 ・第二次世界大戦中の日本について、戦争拡大の経緯や国民の生活の様子、国内外の被害について深く理解する。
	7月	○戦後日本の発展と国際社会 ○新たな時代の日本と世界 < 公民的分野 > ○現代社会の特色と私たち ○私たちの生活と文化 ○現代社会の見方や考え方	・戦後日本の発展を学び、国際社会への復帰の経緯を学ぶ。 ・冷戦後の日本国内外の変化について学ぶ。 ・現代社会の特色である少子高齢化・情報化・グローバル化を理解し現代社会における文化の意義や影響について学ぶ。
二 学 期	9月	○人権と日本国憲法	・人権思想の発展と日本国憲法の基本原理について理解し、基本的人権がなぜ尊重されなければならないか考える。 ・選挙や裁判のしくみを理解し、民主政治を実現していくためにはどうしたらよいか考える。 ・三権の内容と三権分立のしくみとその意義について学ぶ。 ・地方自治の基本的な考え方と住民の生活に直結する地方公共団体の仕事について理解する。 ・身近な事例から、経済活動とはどのようなものか自分自身が経済活動にどのようにかかわっているかを理解する。 ・生産活動と労働者の権利について学ぶ。 ・金融の働きと私たちの生活のかかわりについて学ぶ。 ・国民の福祉と財政のかかわりについて学ぶ。 ・持続可能な社会を創るために、経済がどのような役割を果たすのか考える。
	10月	○人権と共存社会 ○これからの人権保障 ○現代の民主政治	
	11月	○国の政治の仕組み ○地方自治と私たち	
	12月	○消費生活と市場経済 ○生産と労働 ○市場経済の仕組みと金融 ○財政と国民の福祉 ○これからの経済と社会	

三 学 期	1月	○さまざまな国際問題	・世界のできごとと日本のできごとの関連性を発見し、国際社会に貢献できることを考えていく。 ・地球規模で起こっている様々な問題を知ること、現代に生きる私たちにできる解決策を考える。
	2月	○これからの地球社会と日本	
	3月	○3年間の復習	

評 価 の 方 法	知識・技能	定期テスト(宿題テスト、小テスト含)などによって、その到達度を測る。
	思考・判断・表現	振り返りシートやワークシートなどの提出物及び定期テスト(宿題テスト、小テスト含)などによって、その到達度を測る。
	主体的に学習に取り組む態度	学習態度(グループ活動・振り返りシート・提出物・学習準備など)及び定期テスト(宿題テストや小テストを含む)などの「知識・技能」、「思考・判断・表現」の到達度を踏まえ評価する。

学習のしかた	
《 授業中 》	
ノートまとめ方	
<p>板書されたことをノートに写すだけでなく、先生が話した内容で重要だと思ったことや自分で調べたこと(イラストやメモなども入れて)をまとめる。テスト勉強の際、見返すことも考え自分が見て内容が理解できるようにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き込みができるように行間を広くとろう。 ・色ペンをうまく使おう。(重要語句を黄色、間違いやすいものを赤など) <p>※ ただし、授業中に色ペンを使うことに集中しすぎると授業内容が分からなくなるので注意。 ※ できれば、復習・まとめ用のノートをつくと良いでしょう。</p>	
発表・発言	
自分の力で考え、わかったことを発表することはもちろん、わからないときこそ手を挙げて質問しよう。	
調べ学習	
自分でテーマを見つけ、自分で調べたことをまとめ、発表できるようにする。	
《 家庭学習 》	
予習	
<ol style="list-style-type: none"> ① 教科書をしっかり音読する。特に太字で書かれている語句は重要なので、マーカーや赤鉛筆などでアンダーラインを引きながら読んでいく。 ② 次の授業で学習する内容について調べ、ノートにまとめる。 	
復習	
<ol style="list-style-type: none"> ① 教科書を音読して、授業で学んだ要点を確認する。 ② ノートや授業で配布されたプリントなどを見て、授業で学んだ要点を確認し、ワークの問題を解いて、学習内容を理解できるようにする。 ③ 復習をしていて、疑問に思ったこと・わからないところがあれば、先生に聞くようにする。 	
〈地理的分野では〉	
<ul style="list-style-type: none"> * 地図帳を活用しよう。教科書の本文や図に地名や国名が出てきたら必ず地図帳で調べて、地図帳にマークしていきましょう。 * ノートに略地図を書く習慣をつけると良いでしょう。 	
〈歴史的分野では〉	
<ul style="list-style-type: none"> * 歴史の流れとその時代の特徴をつかむためにも、自分で年表やイラストにしてまとめてみよう。(縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・戦国・安土桃山・江戸・明治・大正・昭和・平成) 	
〈公民的分野では〉	
<ul style="list-style-type: none"> * 学習するポイントは、現代社会の制度や仕組みを理解するために、図や表を活用することです。教科書に書かれている図は重要です。自分でノートに書いてまとめましょう。 * TVニュースや新聞記事などに日頃から関心を持つことが大切です。 	

《 テスト勉強 》

①教科書を何度も繰り返し読んで、重要語句などを確認する。

* ノートの重要語句など色分けしたものを活用しよう。

* もう一度自分で書こう。

(地理では略地図、歴史では年表、公民では図など。初めは重要語句だけでも書こう。)

②ワークやプリントの問題だけでなく、授業内容も繰り返し理解できるまで学習する。

③文章記述式問題が解けるように、教科書・ノートをよく読んで、ワークの問題も繰り返し学習する。

④テストの後にしっかりと見直しをして、間違えたところや、書けなかったところを確認する習慣をつけよう。